



きらっと彦根

彦根の魅力★再発見



スミス記念堂（国登録有形文化財）

“世界の城下町 彦根の景観を考える”

NPO法人彦根景観フォーラムの設立20周年記念事業として、記念フォーラム「世界の城下町彦根の景観を考える」が2024年11月2日（土）天守閣を望む中堀沿いのスミス記念堂（彦根市本町3丁目58）で開催されました。

彦根城や周辺の環境（文化・建造物・自然）は、私たち市民にとっては、生活に根付く誇らしい存在であり、豊かな日常の生活の舞台です。この愛おしい景観を次代へと継承していくために、再検証・再評価をして私達はより豊かなまちづくりの為にどのように考え行動すべきなのか、街観察びと、まちづくりや建築景観・歴史・文化財に日頃関わる者たちが まちへの想いを語り問題を提起し、参加する方々も自由に意見を交換し合う場を持つとの趣旨で開催されました。その思いの中には私達彦根景観フォーラムの活動が市民の中に広くは知られていないとの自戒の念があります。

当日はあいにくの雨模様の天候でしたが開始前の11：30～13：00、スミス記念堂横の芝生で、キッチンカーによる軽食＆喫茶の提供（有料）があり天守閣や城山の木々を眺めながら軽いランチタイムと語らいを楽しみました。

フォーラムに入り、先ずパネリストとして杉原正樹（北風寫真館）・濱崎一志（建築史家）・谷口徹（柏原宿歴史館長）、パネリスト兼ファシリテーターとして戸所岩雄の4氏が日頃感じているこのまちの魅力を語り、続いてこのまちに足りないもの、補足したいものを語りそれらを聞いてフロアーの方とのセッションに入りました。

まちの魅力については「積み重ねてきた文化や歴史遺産がそこかしこに点在する」「まちのあちこちに魅力ある物語があり興味が尽きない」「城下町の構成が高度成長期の開発から逃れ残されており生活の中に文化や自然や好ましい景観が程よく残っている」等々。

足りないもの補足したい物としては、「まちに対する市民の愛着心が足りない」「我がまちの文化や歴史資産への誇りを持っている人が少ない」「それらを醸成する機会（学びや学習の機会）がもっとあったら良いしそれらが催される機会があるならその内容を市民に周知してほしい。」「江戸期の建物だけではなくそれ以前からある自然や近代化遺産としての建造物や構造物等、多様な魅力が調和するまちの在り様・考え方」等々。これらを受けてパブリックメッセージを発表しました。

市民としてシビックプライドを抱き

積み重ねてこられたこの町の文化や歴史を大切に、彦根ならではの多様性のある文化景観の在り様を考えよう。

その為に「このまちの“いいね”」を言葉にし、より良きものにする為に行動しよう。

この想いを携えて共に行動しませんか。

彦根景観フォーラムの活動に関心をお寄せ頂ける方はぜひご参加下さい。

戸所岩雄（建築家・彦根景観フォーラム理事・ひこね文化デザインフォーラム理事長）



スミス記念堂にて20周年記念フォーラム 開催

善利組足輕組屋敷特別公開 2024

10月12日（土）～13日（日）

去る10月12日～13日、芹橋2丁目一帯の足輕組屋敷で特別公開が行われました。2012年から毎年10月に行われる、年に一度の特別公開です。彦根辻番所の会の主催で、NPO彦根景観フォーラム、NPO湖東焼を育てる会、瀧谷家住宅「まちかど資料館」の共催で行われました。

公開された屋敷は、林家住宅、辻番所・旧磯島家住宅、服部家住宅、瀧谷家住宅（栄町）、中居家住宅、村山家住宅、吉居家住宅の、7軒で、普段公開されていない屋敷も見学できる機会でした。

林家住宅の湖東焼ギャラリーでは、「SUZUMIAN」が土鍋ご飯と公開日限定の人気メニュー足軽ぜんざいを提供しました。辻番所&旧磯島家住宅では、国内外の風景とパキスタン・アフガンの写真展、池坊廣野恭子社中の花展とお茶席をしました。服部家住宅は、湖東焼窯場跡採取品の史料展示を行いました。瀧谷家住宅（栄町）では、例年のよ

うに「まちかど資料館」として瀧谷家伝来史料の展示のほか、ふすま下張り古文書のはがし体験がありました。

中居家住宅では、上田道三の歴史的記録絵画展と、ハーブ蒸留実験を公開しました。村山家住宅では、人気のチョコレート工房「ハレトケト」が、ドリンクとケーキを提供しました。吉居家住宅では、内覧と資料パネルを展示しました。

最近は関東方面など遠方からの来場者も多く、お城だけではなく彦根の魅力を感じていただけたのではないかと思います。また、特別公開に合わせ、古民家を再生した複合施設「あしがるノイエ」での「足軽おさんぽ秋祭り」をはじめ、様々なイベントが同時開催され、相乗効果が生まれています。

新しく移り住む人も徐々に増え、当公開事業が住民同士の交流の場ともなっているようです。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)



足輕組屋敷 吉居家住宅



旧磯島家住宅での写真展



あしがるノイエ 足軽おさんぽ秋祭り

さとの宿だより

登錄有形文化財「旧一圓家住宅」

多賀さとの宿一圓屋敷は、国の登録有形文化財「旧一圓家住宅」です。平成26年（2014）に登録されました。登録のための調査は、彦根景観フォーラム理事長の濱崎一志（元滋賀県立大学教授・建築史）が担当しました。

「旧一圓家住宅」として登録された建物は、主屋（安政4年（1857）／明治24年改修）、文庫蔵（明治前期）、米蔵（江戸末期）、雑蔵及び木蔵（江戸末期）の4棟です。特徴は、多賀町「一円集落の名主格であった家の住宅。主屋の平面は六間取系で、鍵の手に座敷を並べて要所に座敷飾を備え、正面中央に式台を構える。文庫蔵は主屋の内蔵として使用された。米蔵や、雑蔵及び木蔵が屋敷構えを成し、旧家の格式を伝える」とされています。

一圓屋敷の宿泊をHPや旅行サイトから予約すると、「つぐみ」と「やまどり」の2部屋から選んで頂



くことができますが、「つぐみ」は主屋の2階、「やまどり」は文庫蔵です。つまり、国の登録有形文化財に宿泊できるという訳です。

しかしながら、このことがたいへん貴重であるにもかかわらず、それを目当てに泊まりに来られるお客様は、なかなかおられないのです。そのために、宿泊施設として、心地よく清潔な空間であることもチャームポイントにしていきたいと思っています。

(多賀さとの宿一圓屋敷マネージャー 江竜美子)



多賀さとの宿 一圓屋敷

<https://www.ichienyashiki.jp/>

〒522-0317 滋賀県犬上郡多賀町一円149

Tel. 050-3319-1050 info@ichienyashiki.jp